

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生1・2年の部 最優秀賞

「大すきなじいちゃん」

松任小学校二年  
八田<sup>はった</sup>  
真凛<sup>まりん</sup>

わたしにはいつも元気でやさしいじいちゃんがあります。学校からかえってきたら、元気な声で

「おかえり。早いじ。」

いつももっていてくれます。じいちゃんのおうちにあそびに行くと、わたしの大好きなりんごをむいてくれて、のむヨーグルトといっしょにテーブルに出してくれます。よるごはんにはにものやおでんをつくってくれて、おねえちゃんと学校の話をしながらいっしょに食べるのがさいこうにいいです。あさは学校へ行くみちでいつもみまもりたいをしていています。ぜったいあさ

「おはよう。」

とあいさつができるし、いつもにこにこで

「いってらっしゃい。」

と言ってくれるから今日もべんきようがんばるぞと元気ができます。でも、そんなやさしいじいちゃんがつぜん天ごくへ行ってしまうしました。

もうすぐ春休みだったから、いっしょにあそぶやくそくをたくさんしました。いつもみたいに海に行っておさんぽをしてうどんを食べたり、イオンに行つて

「アイス食べたい。」

とおねがいしていっしょにつめたいアイスを食べたり、たのしみがたくさんありました。

夏休みはいっしょにわかみやプールに行つてあそびたかったし、きよねんよりもじょうずにぼんおどりをしているのを見てほしかったです。

ふゆ休みは家の前でいつも大きなすべりだいをつくってくれました。かたくてがんじょうなすべりだいだったから早くすべれました。じいちゃんはこのすべりだいを一人でつくって名人だなと思いました。またつくつてほしかったです。

じいちゃんとバスえんそくで行ったきょうりゆうパークもおはなみもわすれないよ。たまごやきのつくり方を教えてくれたこともじてん車のれんしゅうをしたこともぜったいにわすれないよ。

もっともといっしょにあそびたかったのになんで天ごくに行つちやっただいじょうぶと思つていたけどまだかなしいからないちやいそうになりました。だってもうやさしくてなんでもしてくれるじいちゃんはいなくなっちゃったから。でもきつとじいちゃんは天ごくでやさしくみまもってくれているから、がんばっているわたしを見ていてね。あさはじぶんでおきて早くじゅんびするね。おねえちゃんともなかよくするし、おとうともたのしくあそぶね。おとうさんとおかあさんのお手つだいもたくさんするよ。じいちゃんいつもありがとう。天ごくでおばあちゃんと元気でいてね。ずっとずっと大すぎだよ。